



令和4年度(2022年度)  
第1回 熊本市動植物園マスタープラン推進会議  
説明資料

# 令和3年度の来園者数と成果指標について

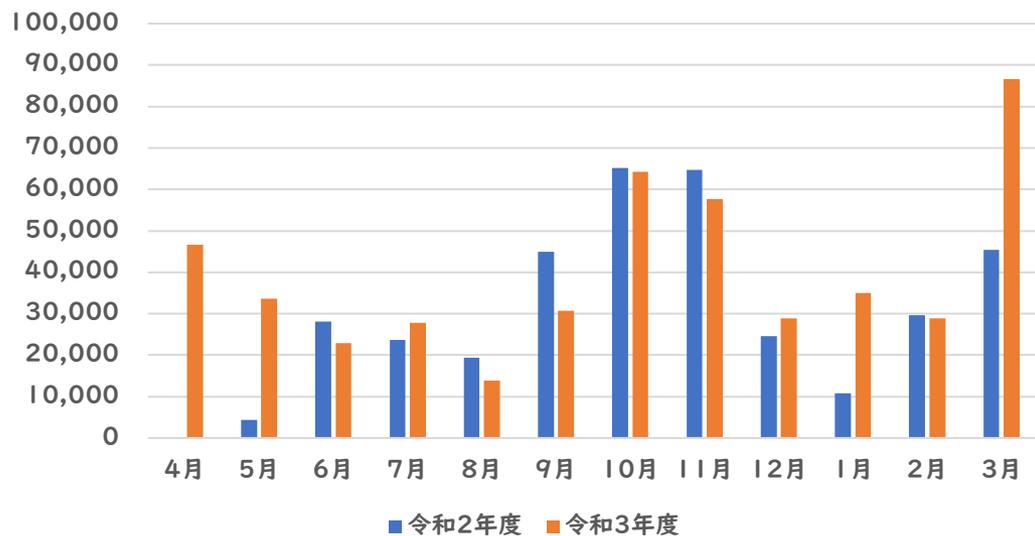
## 来園者数（人）

令和3年度 476,280

令和2年度 360,786

令和3年度の来園者数は476,280人で、令和2年度と比べて115,494人の増加（32%増）であった。

令和2年度と令和3年度の月毎来園者数比較



動植物園におけるコロナ対策措置

| 年度    | 期間        | 実施措置   | 備考                   |
|-------|-----------|--------|----------------------|
| 令和3年度 | 5/18~6/13 | 遊具運休   | 熊本県へのまん延防止等重点措置適用により |
|       | 8/22~9/30 |        |                      |
|       | 1/21~3/6  | イベント休止 |                      |
| 令和2年度 | 4/1~5/17  | 臨時休園   | 新型コロナウイルス感染拡大防止のため   |
|       | 1/15~2/17 |        | 県独自の緊急事態宣言により        |

(単位:人)

|       | 4月     | 5月     | 6月     | 7月     | 8月     | 9月      | 10月    | 11月    | 12月    | 1月     | 2月     | 3月     | 計       |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 令和3年度 | 46,564 | 33,604 | 22,837 | 27,681 | 13,926 | 30,727  | 64,243 | 57,721 | 28,795 | 35,062 | 28,860 | 86,620 | 476,640 |
| 令和2年度 | 0      | 4,376  | 28,025 | 23,728 | 19,420 | 44,916  | 65,177 | 64,662 | 24,582 | 10,736 | 29,685 | 45,479 | 360,786 |
| 対前年比  | 46,564 | 29,228 | -5,188 | 3,953  | -5,494 | -14,189 | -934   | -6,941 | 4,213  | 24,326 | -825   | 41,141 | 115,854 |

# 動植物園の施設整備について

## ①植物ゾーンエントランスと水辺のインフォメーションセンター

“緑”や“水”を感じる開放的な空間

樹木を植栽して緑陰を確保  
“水”を感じる施設を設置



〈植物ゾーンエントランス〉

江津湖の情報を“集積・発信”する拠点

江津湖に生息する魚類の展示  
自然・暮らし・文化の学習の場として利用



〈水辺のインフォメーションセンター〉

## ②正面ゲートリニューアル

動植物園の新たな“シンボル”

令和4年（2022年）2月5日より供用開始  
屋内には授乳室や情報発信スペース等を配置



〈正門ゲート〉

## ⑤展望デッキの設置

江津湖を眺める絶景の  
ビュースポット

江津湖との一体感、江津湖と  
調和したデザイン



〈展望デッキ〉

## ③植物ゾーン展示改修

四季を通じて楽しめる“花”と“緑”の空間

メインストリートを新設し、来園者を植物園へ誘導  
大花壇の拡張、バラ園・梅園の拡張、時計塔の改修

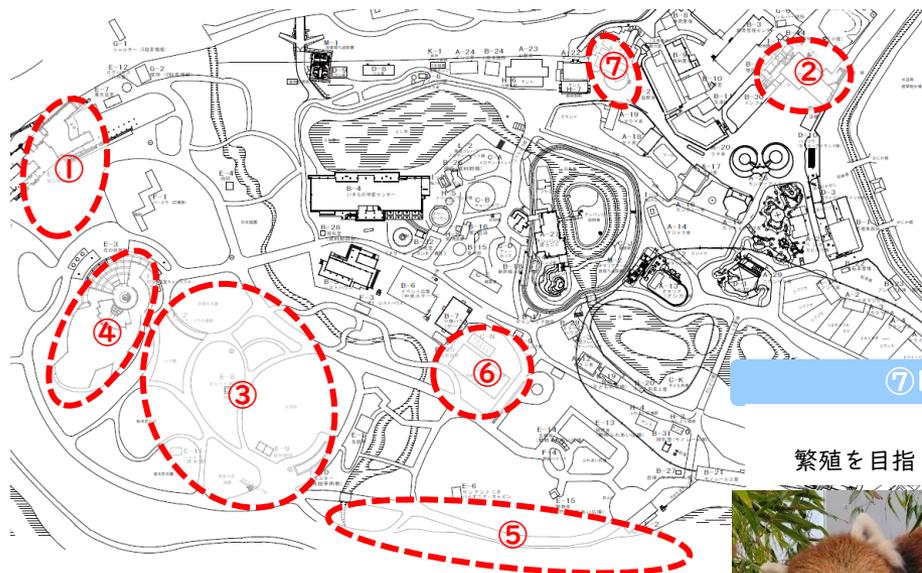
〈大花壇〉



## ④花の休憩所



〈ナマケモノ展示の大温室〉



“動物”と“植物”の融合  
ナマケモノや熱帯の鳥類を展示  
展示・休憩スペースの充実

## ⑥遊戯施設の導入

様々な年代の来園者が楽しめる  
遊戯施設  
遊戯施設を通じて、動植物を学べる



〈新遊戯施設〉

## ⑦レッサーパンダ展示開始

種の保存の取組

繁殖を目指し2頭を新たに導入（3月11,13日）



オス：愛称 かぼす



メス：愛称 シンファ

# 熊本市動植物園コレクションプランについて

熊本市動植物園コレクションプランとは、『生物の保存、繁殖に取り組むために生物を選定、分類し、管理していく計画』のことです。

動物に関しては、(公社)日本動物園水族館協会(JAZA)が、その保全上の必要性、教育的価値、学術的価値、展示効果その他の指標に基づき、協会が組織的に継続的確保を図ることが必要もしくは望ましいと認められる種を選定し、2015年からJCP(JAZAコレクションプラン)を策定しています。このJCPに協力する形で当園における計画を立てていきます。

## 背景

\*世界各地で野生の動植物が減少、絶滅の危機に瀕し、保全が必要となっております。

\*ワシントン条約等による輸出入に関する規制や国際的な飼育管理基準等により海外導入の厳しさが増大。  
➡国内での繁殖が進まないと将来、展示可能な種が減少する可能性があります。



アフリカゾウ



マサイキリン

## コレクションプラン策定の意義

**I**  
園内で希少性の高い動植物の繁殖・増殖を行い、後世へ残していくための柱(計画)が必要

**II**  
園内に留まらず関係団体との連携強化を図っていくうえで、基本方針が必要不可欠

## コレクションプラン策定により期待される効果

- (1) 日本動物園水族館協会や他園館などの関係機関との連携強化
- (2) 国や自治体、博物館、大学等との連携した調査研究の充実
- (3) 動植物園等が持つ「種の保存」という社会的役割の明確化
- (4) 野生動植物や地域固有種の保護のための普及啓発や自然環境教育の推進
- (5) 計画的な動物の飼育環境や希少植物の育成環境の充実

## コレクションプランの基本的な考え方

### ① 国内及び国際的希少種の保全

**動物**: 日本動物園水族館協会と連携し、優先度の高い希少動物種を中心に検討し、策定する。

**植物**: 優先度の高い希少な植物に限定してプランを策定する。

### ② 地域固有種の保全

**共通**: ソボサンショウウオ、肥後六花等など地域固有種の保全を図り、生息域外保全や生息域内保全の役割を強化できる種を検討し、策定する。

### ③ 教育及び学術的観点

**共通**: 野生動植物及び地域固有種の保護のための普及啓発や環境教育等の観点を加味して種を検討し、策定する。

### ④ 動物福祉への配慮

**動物**: 飼育施設でのスペースの確保等、動物福祉に配慮し、適正な動物種および個体数を検討する。

## コレクションプランにおける分類の考え方

| 種別 | 分類       | 説明                                  |
|----|----------|-------------------------------------|
| 動物 | 1 推進種    | 積極的に繁殖・導入を推進                        |
|    | 2 維持・継続種 | 現状を維持できるよう繁殖・導入を行い、継続飼育             |
|    | 3 減少・調整種 | 導入・繁殖が困難、または保全のため他園へ貸し出す等、将来的に減少・調整 |
|    | 4 調査・検討種 | 保全等の必要性が高く、導入が期待され、今後調査・検討を実施       |
| 植物 | 1 地域固有種  | 絶滅危惧種に指定され、地域特有の希少な植物               |
|    | 2 伝統園芸種  | 熊本特有の園芸品種として栽培され、園芸文化として興隆してきた植物    |



# コレクションプラン（動物）



## 推進種：積極的に繁殖・導入を推進する動物種（9種）

### チンパンジー

野生個体数は減少。保全の必要性が高い。JAZAの計画としても遺伝的多様性を保つために当園の血統は重要。

CITES：I レッドリスト：EN  
JCP：管理種



### スダスローリス

野生個体数は減少傾向。30頭までの個体群をみざすJAZAの方針に沿い、現在飼育中のペアで積極的に繁殖に取り組む。

CITES：I レッドリスト：VU  
JCP：管理種



### シセンレッサーパンダ

JAZAの管理計画では、新規園館による血統的に優れた個体の受入れと繁殖の推進が求められており、今回導入し、繁殖を推進。

CITES：I レッドリスト：EN  
JCP：管理種



### クロサイ

野生、国内飼育とも保全の必要性が高い。大学等とホルモン動態、行動観察など、今後のクロサイの繁殖に向けた調査研究を推進。

CITES：I レッドリスト：CR  
JCP：管理種



### マサイキリン

JAZAの繁殖計画に基づき推進。繁殖が可能なメス個体は、当園のコナツを含め2頭のみであるため、必要性は高い。

CITES：II レッドリスト：VU  
JCP：管理種



### ニホンイヌワシ

環境省の保護増殖事業対象種であり、JAZAの管理計画に基づき、ペアとなるメス個体を導入し繁殖に取り組む。

CITES：II レッドリスト（環）：EN  
JCP：管理種



**維持・継続種**：現状を維持できるように繁殖等行い、継続飼育する動物種（111種）

## ワオキツネザル

国内で順調に繁殖した結果、繁殖制限が必要な園館が出てきている。搬出先が少ないこともあり、現在の頭数を維持する。

CITES：I レッドリスト：EN  
JCP：維持種



## ニホンザル

生物多様性や人と動物の共生のための教育的価値が高く有用であるため、頭数を維持し継続飼育を行う。

CITES：— レッドリスト：LC  
JCP：維持種



## フンボルトペンギン

施設的に現個体数程度が適当。遺伝的多様性を保持する必要があり、国内計画に準じ、個体の入替・繁殖を行い個体群として維持する。

CITES：I レッドリスト：VU  
JCP：管理種



## 肥後チャボ

伝統文化を伝える種として有用。天然記念物にも指定されている。肥後チャボ保存会と連携し、個体の入替えを行いながら継続した展示が可能。

CITES：— レッドリスト：—  
JCP：—



**減少・調整種**：導入・繁殖が困難、または保全のため他園への貸し出す等、将来的に減少・調整する動物種（6種）

## シロダマジカ

エリア計画ではアジアゾーンでの飼育だが、将来に渡り適正な飼育環境が確保困難なため、現在の個体については、終生飼養もしくは他園搬出を検討。



CITES：— レッドリスト：LC  
JCP：—

## オタリア

オス個体1頭のための単性飼育であり、繁殖可能年齢を超える年齢となるため、新たな個体は導入せず現在の個体を終生飼養する。



CITES：— レッドリスト：LC  
JCP：管理種

## シロエリオオヅル

国内頭数が2頭のみ。現飼育舎のエリア計画では、国内種を優先させるため、新たな導入は行わず、現個体は終生飼養もしくは他園搬出を検討。



CITES：II レッドリスト：VU  
JCP：—

## アカコンゴウインコ

JCPで管理種であり、当園においてメスを導入し繁殖を推進する施設を有しないことから、JAZAの管理計画に寄与するため搬出を検討する。



CITES：I レッドリスト：LC  
JCP：管理種

**調査・検討種**：保全等の必要性が高く、導入が期待され、今後調査・検討を行っていく動物種（10種）

## マンドリル

保全の必要性が高く、JAZAの管理計画との整合を図り、マスタープランでのサバンナゾーンの時期に合わせ、国内の取組に寄与できるよう導入を行いたい。

CITES：I レッドリスト：VU  
JCP：管理種



## シロオリックス

野生絶滅。飼育下繁殖個体の野生再導入が行われている。保全の必要性が高い。サバンナゾーンの時期に合わせ、管理計画に寄与できるよう導入を行いたい。

CITES：I レッドリスト：EW  
JCP：管理種



## アカウシ（褐毛和種熊本系）

熊本で改良された種であり、阿蘇の原野に放牧されて飼育されることも多く、野焼き等を行い草原が維持されている阿蘇の環境教育の題材としても有用。

CITES：— レッドリスト：—  
JCP：—



あか毛和牛（褐毛和種熊本系）

## ハダカデバネズミ

特徴的な生態や研究内容は教育的価値が高いことから、飼育展示に取り組む。生態や研究成果に関する情報発信にも有用。

CITES：— レッドリスト：LC  
JCP：—



# コレクションプラン（植物）



# コレクションプラン（植物）対象種の選定

園内で約700種の植物を栽培・育成

## コレクションプランの基本的な考え方

- ① 国内及び国際的希少種の保全
- ② 地域固有種の保全
- ③ 教育及び学術的観点
- ④ 動物福祉への配慮

## 植物に関する基本的な考え方



**地域固有種**  
環境省・熊本県レッドリスト 等

**伝統園芸種**  
熊本県学習指導要領 等

2つの分類に該当する植物についてコレクションプラン対象種に選定  
(選定外の植物については、これまでと同様に育成・保全を継続)

## 地域固有種：絶滅危惧種に指定され、地域特有の希少な植物（4種）

### スイゼンジノリ 【クロオコッカス目 アファノテーケ科】

熊本県の地域固有種であり、水前寺江津湖公園内にある「スイゼンジノリ発生地」は国指定天然記念物に指定されている。



環境省：絶滅危惧Ⅰ類  
熊本県：絶滅危惧ⅠA類

### ヒゴタイ 【キク目 キク科 ヒゴタイ属】

岐阜県、広島県と九州の特定箇所（九州中部の九重山から阿蘇山周辺の草原）で見られる。現在は開発や乱獲の影響で数が減っている。



環境省：絶滅危惧Ⅱ類  
熊本県：絶滅危惧ⅠB類

### ヒラモ 【オモダカ目 トチカガミ科】

熊本県の固有種の水草で、熊本市の江津湖と益城町の藻川水路にしか大規模な群生地がない。



環境省：絶滅危惧Ⅱ類  
熊本県：絶滅危惧ⅠB類

### ワンドスゲ 【イネ目 カヤツリグサ科 スゲ属】

ワンドスゲは以前はエヅナルコスゲと呼ばれていた。全国では関西地方と江津湖のみに生息。



環境省：絶滅危惧Ⅱ類  
熊本県：絶滅危惧ⅠB類

環境省：絶滅危惧Ⅰ類（絶滅の危機に瀕している種）  
熊本県：絶滅危惧ⅠA類（絶滅の危険性が極めて高いもの）

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）  
熊本県：絶滅危惧ⅠB類（ⅠA類ほどではないが絶滅の危険性が高いもの）

## 伝統園芸種 : 熊本特有の園芸品種として栽培され、園芸文化として興隆してきた植物 (4種)

### 肥後芍薬 (シャクヤク) 【ユキノシタ目 ボタン科 ボタン属】

ほかの肥後六花※と類似して、大輪、一重咲きが特徴。  
開花: 4月下旬~5月下旬

保存団体  
白蝶会

園内展示状況  
9品種 22株



### 肥後椿 (ツバキ) 【ツバキ目 ツバキ科 ツバキ属】

世界の名花として知られており、花弁は一重で梅芯状の平咲きを特徴とする。  
開花: 2~4月

保存団体  
肥後つばき協会

園内展示状況  
17品種 18本



### 肥後花菖蒲 (ハナショウブ) 【キジカクシ目 アヤメ科 アヤメ属】

一般にハナショウブの栽培は水辺で地植えされることが多いが、肥後花菖蒲は鉢作りのため室内鑑賞が可能。

開花: 6月上旬~中旬

保存団体  
熊本花菖蒲満月会

園内展示状況  
25品種 90株



### 肥後山茶花 (サザンカ) 【ツバキ目 ツバキ科 ツバキ属】

大輪、一重咲きが特徴であるが、一般の山茶花に少ない八重咲きの品種が多い。

開花: 10月下旬~12月

保存団体  
肥後さざんか協会

園内展示状況  
13品種 13本



※肥後六花 … 細川家8代目 細川重賢(しげたか)公のときに、武士のたしなみとしてはじめられたもの。それぞれ「花連(はなれん)」と呼ばれる団体があり、現在まで厳格な栽培法を伝承し、一部は門外不出、純粋種を保存。